

## チネリア・ママの多収性について

栽培土壌学分野 佐々木 香菜

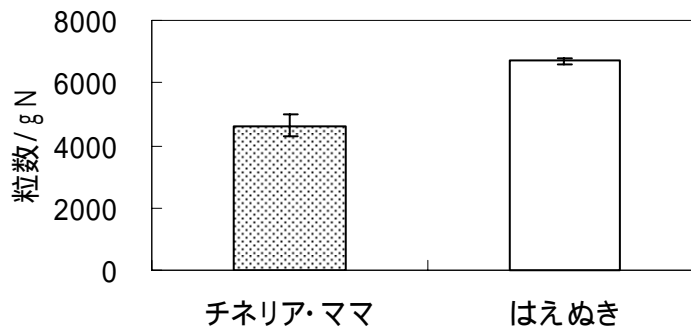
【目的】チネリア・ママは村山農業高校で選抜育種された水稻品種であり、10 aあたり1 tの収量をあげている。この多収性に注目し、昨年度から山形大学附属農場においてもチネリア・ママの品種特性を検討してきた。昨年度、附属農場においてチネリア・ママは穎花が退化しやすいため初数が少ないことが指摘された(島本2005)。そのため、チネリア・ママの多収のためには単位面積当たりの穎花数を確保することが必要と考えられた。穎花数は出穂前25日から5日の窒素条件に大きく左右されることから、本年度は、多量施肥することで穎花数の確保を目標とした。さらに、多量施肥の下、穎花獲得のためにチネリア・ママの穎花生産の特徴を把握することを目的とした。

【材料と方法】供試圃場：山形大学附属農場。供試品種：チネリア・ママ，はえぬき。施肥方法：基肥4 kg/10a，活着肥2 kg/10a，分けつ肥2 kg/10a，穂肥9 kg/10a(出穂前20日から出穂後5日にかけて6回に分施)。測定項目：植物体窒素含量，枝梗別の退化・分化穎花数。

【結果と考察】 窒素吸収量(出穂期)：チネリア>はえぬき。  $\text{m}^2$ 当たりの1次枝梗上分化穎花数：チネリア<はえぬき，2次枝梗上分化穎花数：チネリア>はえぬき，全分化穎花数：チネリア<はえぬき。  $\text{m}^2$ あたりの1次・2次枝梗上退化穎花数：チネリア>はえぬき。  $\text{m}^2$ あたりの1次枝梗上現存穎花数：チネリア<はえぬき，2次枝梗上穎花数：チネリア>はえぬき。 穎花生産効率(分化穎花数/窒素吸収量)：チネリア<はえぬき。

以上のことからチネリア・ママは2次枝梗型の品種であるにもかかわらず、今回の多量施肥においても穎花生産効率が低く、退化率が高いという問題があった。

### 穎花生産効率



### 枝梗別の現存穎花数

